

ビクタースタジオ監修の完全ワイヤレス どんなジャンル音楽も ストレスなく聴かせる

ストレスフリーで音楽を楽しめる、自然で聴き心地のよいサウンドを目指して、ビクタースタジオのエンジニアとともに開発されたおなじみの「犬のマーク」をあしらった完全ワイヤレスイヤホンが登場！毎日使いたくなる、長く愛着が持てる、ビクター渾身の高音質モデルだ。

文 鴻池賢三

写真 阿部良寛

取材協力 JVCケンウッド

プロのエンジニアが認める 本物の高音質を追求した

完全ワイヤレスイヤホンのジャンルはモデル数が増えて選択の幅が広がったのはうれしい反面、製品選びで迷いがちでもある。機能が近ければ、価格差もそれほど大きな開きがないのも一因だろう。そこに「音質」で圧倒的な存在感を持つ新製品が登場した。ビクターブランド

を冠した「HA・FX100T」である。コンセプトは「制作現場のプロが認めた高音質」。今回は、開発者であるJVCケンウッドの美和康弘氏にインタビュをおこない、開発経緯や技術のポイントを交えつつ、レビューをお届けしたい。完全ワイヤレスイヤホンは多くのブランドから魅力的なモデルが多数登場しているが、HA・FX100Tだけの新しい提案が「Tuned by Victor Studio」。



JVCケンウッドはグループ内に「ビクタースタジオ」を抱えている。現役のスタジオエンジニアに「耳を借りて」設計したというのが斬新だ。

使い勝手の面では、タッチ&トークと呼ぶ外音取り込み機能を搭載。クアルコム社のSocを搭載し、コーデックはSBC/AAC/aptXに対応するほか、通信安定性をより高める左右同時接続「Qualcomm TrueWireless Stereo Plus」機能も利用できるなど、最新仕様である。ほか、コンパクトながら、イヤホン単体で最大約8時間使用できるバッテリー持ちのよさも特長だ。

本機で最も注目すべきは「音質」だが、先にあえて「耳を借りて」と強調したのは、HA-FX100Tが、いわゆる測定器や基準器的な性格が求められる「スタジオモニター」を目指したのではなく、メジャー作品の制作に関わるプロのエンジニアが「リスニング用途として音楽を楽しむための高音質」を意識して開発に参加しているからだ。

美和氏によると、具体的にはスタジオエンジニア3名に、それぞれ普段使っている楽器としている楽曲を課題曲として挙げて貰い、設計↓エンジニア確認↓設計修正↓エンジニア確認…を繰り返し、満足行くまで煮詰めたという。ちなみにエンジニアのコメントは、「何分何秒の、この楽器の音が」「こういう風に聴こえてほしい」「この位置で鳴るように」などと、緻密なものだったという。ボーカルに関

する指摘も多かったそうで、一般リスナーの体験向上に直結しそうに感じた。

なお、エンジニアの聴感によるアウトプットを実際の設計に落とし込むには、言葉の解釈と技術要素の紐付けが必要で、想像すると非常に骨の折れる作業である。この点、美和氏の手腕が問われる部分だ。

本機のチューニングはアコースティックな手法を最優先し、また、ドライバーの振動板はあえてコーティングを施さず素直な音色のPET素材そのものに決定。ほか、ドライバーユニット後方に音響空間を設け、この空間と空気穴によるダンピングの調整で可能な限りチューニングを実施。最後の最後にEQで整えて仕上げられているという。「素の音」へのこだわりは、原音を探究するオーディオブランドらしいもので、試聴が楽しみである。

美和氏によると、目指したのは「プロが認めた高音質」と、「ストレスフリーで音楽を楽しめる心地よいリスニング体験」で、「囁めば囁むほどいい音。じっくり聴いてほしい」とのこと。奇をてらわれない本機に期待は高まるばかりである。

**ずっと聴いていたくなる
素直で優しいサウンド**

それでは実際に聴いてみよう。まず手に取ると、非常にコンパクトであることに驚く。イヤホン本体はシンブルな円筒形で、特段に小さく見せるためのデザイ

完全ワイヤレスイヤホン

VICTOR HA-FX100T

¥OPEN (実勢価格¥16,280前後)

SPEC ●通信方式: Bluetooth Ver.5.1 ●コーデック: SBC、AAC、aptX ●ドライバー口径: 6mm ●連続再生時間: 約8時間 (ケース込み28時間) ●質量: 約4.5g (イヤホン片側)、約41g (ケース) ●付属品: スパイラルドットイヤピース (S/MS/M/ML/L)、充電用USB Type-Cケーブル



Tuned by
VICTOR STUDIO

ンは施されておらず、リアルに小さい。デザインについては、サウンドコンセプトを元に設計陣からデザイナーにリクエストしたものだそうで、月並みだが、「シンプル・イズ・ベスト」。飽きが来ず永く使えそう。ケースは薄型であることに加え、収納するイヤホンの角度を吟味することで、体積も小さくなるように工夫されているという。

イヤホンを装着すると、小型軽量で負担感が皆無であることに加え、ノズルが十分に長いので、安定した固定感が得られて心地いい。なお、イヤーチップは、JVC独自の「スパイラルドットイヤープース(EP・FX9)」が付属していて、耳穴に深く挿入しても違和感が少ない。トータルで耳からの出寸も小さく、完全ワイヤレスイヤホンとして好印象だ。

ストリーミング配信で音質を確認すると、音が出た瞬間に「優しい音」と直感した。高解像度でありながら、刺激感が皆無で、耳触りがいい。あいまよんの「ハルノヒ」は、イントロ冒頭からアコースティックギターの音色に厚みと温かみを感じられ、音場の自然な広がりも心地よい。8秒あたりからのデイスティションが効いたギターは、一般的なオーディオ機器では歪が不快に感じちだが、本機では飽和感がなく音色として楽しめる。この辺りから、EQなどで強調せず、アコースティックな手法できちんと着詰められたサウンドであることがわかる。聴いて心地よく、長時間ストレスフリーで

楽しめるという、そんな本機のコンセプトが理解できるのだ。

YOSOBIOの「夜に駆ける」は、冒頭のボーカルがスムーズに立ち上がり、背景との分離がよく浮かび上がるように明瞭。10秒あたりからのドラムは、聞き応えのある重低音を奏でつつ、音像がシャープで独立し、他の音を邪魔せずクリーンに消えて行く様も秀逸。ナチュラルでヒトの聴覚に沿ったサウンドといえ、これも「ストレスフリー」に通じる。

美和氏によると、完全ワイヤレスイヤホンとベストマッチするように設計された同時発売のイヤーチップ「スパイラルドットSF(EP・FX11)」との組み合わせもグレードアップとしてお薦めというので試してみた。SFはSTEREOSTRESSFREE(ストレスフリー)の意で、新しく柔らかなシリコン素材を用いることにより、快適なフィット感を狙ったもの。柔らかめなので、耳に強く押し込むよりは、軽くフタをする程度で、変形させず耳穴に均等に密着させるのがコツだそう。サイズは、S/MS/M/ML/Lの5種類をラインアップしている。

筆者は付属イヤーチップの場合はMSサイズが好ましいが、EP・FX11は一回り小さいMSでちょうどいい感じ。耳穴の入り口を通過した後、中で開いて軽く内壁に触れ、優しく固定できる。もう少し押し込んで先端部が耳穴の奥を密閉するくらいが丁度いいだろう。

試聴すると、装着による負担感がより



本体のみで連続再生約8時間

イヤホン本体はコンパクトながら、長時間再生と高音質を実現するために必要なバッテリーや音響調整空間を十分に確保している。タッチ操作が可能で、外音取り込み機能も搭載している。ケース部分もできるだけスリムにできるように、イヤホンを斜めに配置して充電できる構造になっている。スタジオ仕様を反映して、ビクターの犬のマークを配置。音質へのこだわりもさりげなく主張する。



フィットしやすい小型ボディ

毎日、気軽に使えるようにシンプルなデザインと小型・軽量設計にこだわったビクター「HA-FX100T」。ノズルの長さや角度を再検討して、音質と装着性にも気を配った。クアルコム最新のチップを採用しており、対応スマホとの組み合わせで接続性を高める「Qualcomm True Wireless Plus」にも対応するほか、高性能LDSアンテナを採用するなど、音途切れ対策も抜かりない。

プロが認めた高音質 長く愛着が持てる ストレスのないサウンド

和らぐことでストレスが軽減でき、音により集中できる環境が整う。音の感じ方は心理的な要素も大きく影響するもので、リラククス効果は無視できない。もちろん、実際の音質向上効果も体感できるので、音がクリアになって音場の見通しがよくなり、広がった空間に楽器やボーカルが距離感を伴って整列。音同士の分離がよくなると、脳内での分別作業が軽減されるのか、疲れが少なく感じ、音楽を聴きながら仕事もこなせてしまう。

美和氏によると、イヤーチップはあくまでも、イヤホンから放たれた音をより素直に引き出す機能を担い、味付けするものではないとのことだ。

デザイン、機能、特殊な素材の利用な



取材にご協力いただいた株式会社JVCケンウッド メディア事業部 技術本部 美和康弘氏。「SU-AX01」や「スパイラルドット++イヤープース(EP-FX10)」をはじめ、数々の名品を生み出してきたエンジニアだ。

どにおいて目立たないが、裏を返すと、奇をてらわず「いい音」にとことんこだわったモデル。音楽やオーディオにおいて、やはり「音質」は、より楽しく、リラククスして長時間楽しむうえで、最も重要な部分。完全ワイヤレスイヤホン選びに迷ったら、「本物」といえる本機に注目してみてはいかがだろうか？

CHECK!

完全ワイヤレスのための 新設計イヤーチップ "スパイラルドットSF(ストレスフリー)"

ビクター「HA-FX100T」の音質をさらにグレードアップさせてくれる別売のオプションとして、新開発「スパイラルドットSF(EP-FX11)」も発売される。完全ワイヤレスイヤホンとのマッチングに優れた薄型フォルムで、傘の部分に一般的なものよりも柔らかいシリコン素材を採用しており、耳穴に沿って保持する仕様としていることがポイント。ホーン形状の音導筒によって見通しのいいサウンドも目指している。

イヤーチップ

JVC

EP-FX11

¥OPEN (実勢価格¥1,540前後)

SPEC ●サイズ:S/MS/M/ML/L



"スパイラルドットイヤープース"も同梱

音の濁りを抑えてクリアなサウンドを届けるために、イヤーチップ内部で壁に当たって反射する放射音を効果的に拡散させるために最適に配置されたディンプル形状を持つ、ビクター独自の「スパイラルドットイヤープース(EP-FX9)」を5サイズも同梱している。充電ケーブルはUSB Type-Cで、10分間の充電で約1時間再生できる急速充電にも対応している。